

COVID-19 に目を奪われがちですが、梅毒の感染増加がとまりません。2010 年以降梅毒患者は増加傾向にありましたが、COVID-19 がアウトブレイクした 2020 年は若干減少したものの、2021 年はまた上昇に転じ全国で 8000 名弱の感染が報告されました。今年はすでに 9 月時点で 8000 名を超え、現行の調査が始まった 1999 年以降で最多は確実とのことです。地域別に見ると東京都と大阪府およびその周辺の地域からの報告が特に多く、大都市圏に集中する傾向があります。

年齢別に見ると、男性は 20 歳台から 50 歳台まで幅広い年齢層にみられるのに対し、女性は特に 20 歳前半に多く発症しています。かつては男性に多くみられましたが、近年は、女性患者が急増しており、比率は 2:1 程度にまでなっています。感染経路について男性は異性間性的接触が 6 割、同性間性的接触が 2 割、女性では異性間性的接触が 8 割ですが、性風俗産業が感染の温床になっていることが再び注目されています。男性では性風俗産業の利用歴がある人が 4 割近くに上り、女性では従事歴のある人が同じ割合を示しています。一方で性風俗産業に関係ない感染者が男女ともに 3 割程度いて、専門家はインターネットを通じた不特定の人との性行為の増加を指摘しています。

御存知の通り、梅毒は感染症法では全数把握対象疾患の 5 類感染症に分類されていて、診断した医師は 7 日以内に管轄の保健所に届け出ることが義務づけられていますが、感染者数の増加を受けて厚労省は 2019 年 1 月から梅毒の発生届の様式を変更しました。届出事項に「性風俗産業の従事歴・利用歴の有無」「口腔咽頭病変」「妊娠の有無」「過去の治療歴」「HIV 感染症合併の有無」が追加され、診断方法についても PCR 検査が新たに追加されたとのことです。私も不勉強だったのですが、梅毒の PCR 検査について調べてみると 10 年以上前から論文がみられ、皮膚病変のスワブによる PCR 検査と血清抗体価を比較すると、抗体検査では陰性であったが PCR は陽性であった例が相当数あり、抗体価上昇前の時期での早期診断が可能である一方、抗体陽性/PCR 陰性例もあり、早期から抗菌薬服用歴のある治療先行例ではその傾向があったとのことです。現時点では PCR 検査は早期診断に有効ですが感度的に抗体検査に劣る場合があり、抗体検査の補助手段としての意義はありますが、陰性の場合の診断における信頼度はまだ低いとの認識です。検査できる施設も限られており保険適用とはなっていないようです。

治療はペニシリン系抗菌薬が第一選択で、アモキシシリンの経口投与や、神経梅毒ではベンジルペニシリンカリウムの点滴静注が日本感染症学会により推奨されています。また梅毒の世界的な標準治療薬であるベンジルペニシリンベンザチン筋注製剤が日本でも昨年承認され、今年の 1 月から発売されました。本薬剤は梅毒のみの適応で、早期梅毒では単回投与で治療が終了しアドヒアランス低下の懸念がなく、またこれまで耐性菌の報告がないことが利点ですが、薬価は少々高めです。

なお、梅毒は感染しても終生免疫は得られず再罹患する可能性があるとのことです。COVID-19 と同様一度かかれば大丈夫というわけではありません。

(五十嵐敦之)

— 顧 問 —

大原 國章 大塚 藤男

— 編集委員 —

土田 哲也 五十嵐敦之 相馬 良直 林 伸和 佐伯 秀久

「皮膚科の臨床」第 64 巻 第 11 号 10 月号

2022 年 10 月 1 日発行（毎月 1 回 1 日発行）

定価 3,080 円（本体 2,800 円＋税 10%）

年間購読料金

定価 47,630 円（本体 43,300 円＋税 10%）

〔年間 13 冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

TEL 03(3811) 7165 [編集室直通]

TEL 03(3811) 7184 [営業部直通]

FAX 03(3813) 0288

ホームページ www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。